

F * T R A N +

V 3 . 0

操作説明書 / 導入編

第 1 版

株式会社 富士通ビー・エス・シー

はじめに

F * T R A N + (エフトラン・プラス)は、汎用機 / オフコン / U n i x などのホストのファイル転送データと、パソコンの標準である W i n d o w s ファイルとのデータ交換をする汎用性の高いファイル変換ユーティリティです。W i n d o w s ファイル間のデータ変換もできます。

W i n d o w s 9 8 / 9 5 または W i n d o w s N T / 2 0 0 0 上の 3 2 ビットアプリケーションとして動作します。

ソースプログラム、バイナリファイル、ランダムファイル、プリント形式ファイルなどを変換する基本機能に加え、コンマ区切り (C S V) 形式対応など、市販ソフトとのデータ交換に適した強力なデータ加工・編集機能を備えています。また、各種漢字コードに対応し、拡張漢字にも本格対応しています。さらに、C O B O L の数値項目等 (ゾーン形式、パック形式、2 進形式、B C D 形式) にも対応しています。

F * T R A N + は、さまざまなホストとパソコンの連携利用を強力に支援します。その高い汎用性、高性能、高機能が有効に活用されることを願ってやみません。

F * T R A N + のマニュアルには、導入編 (本書) 、解説編、コマンド編、マルチレコード編、プログラム応用編があります。導入編 (本書) の構成はつぎのとおりです。

第 1 章 インストール

「インストール」の方法を説明しています。

第 2 章 セットアップ

各種ホストに適合させる「セットアップ」の方法を説明しています。

第 3 章 システム構成

動作 O S 、動作環境について説明しています。

第 4 章 バージョンアップ内容

バージョンアップ内容を説明しています。

第 5 章 タッチ&トライ

F * T R A N + の操作を実習します。

第 6 章 サポートについて

F * T R A N + のサポートについて説明しています。

目 次

第 1 章 インストール

1.1	パッケージ内容.....	2
1.2	ハードディスクへのインストール.....	3
1.3	アンインストールの実行.....	13
1.4	オンラインマニュアルについて.....	20

第 2 章 セットアップ

2.1	セットアップとは.....	24
2.2	コード変換表とは.....	26
2.3	コード変換表の出荷時設定.....	28
2.4	セットアップの手順.....	32
2.5	ホスト選択.....	33
2.6	変換設定.....	34

第 3 章 システム構成

3.1	動作OSと動作環境.....	42
-----	----------------	----

第 4 章 バージョンアップ内容

4.1	バージョンアップ内容.....	44
-----	-----------------	----

第 5 章 タッチ&トライ

5.1	ホスト Winファイル変換.....	46
-----	--------------------	----

第 6 章 サポートについて

6.1	サポートについて.....	56
-----	---------------	----

第1章



インストール

1.1 パッケージ内容

インストールの作業をはじめる前に、本製品のパッケージ内容を頭に入れておいてください。

本製品のパッケージ内容は以下のとおりです。

操作説明書・導入編

操作説明書は5分冊構成になっており、提供CD-ROMにオンラインマニュアルとして格納されていますが、導入編は冊子として標準添付されています。

(1) F*TRAN+ V3.0 操作説明書・導入編

最初に、お読みください。

インストール、セットアップ、システム構成等について説明しています。

提供CD-ROM

本製品のプログラム、および、以下の操作説明書は、CD-ROM 1枚 で提供されます。

(1) F*TRAN+ V3.0 操作説明書・導入編

最初に、お読みください。

インストール、セットアップ、システム構成等について説明しています。

(2) F*TRAN+ V3.0 操作説明書・解説編

操作方法がわからない場合、変換仕様などを知りたい場合に、お読みください。

(3) F*TRAN+ V3.0 操作説明書・コマンド編

お客様のプログラムから利用する場合などに、お読みください。

コマンドについて詳細に説明しています。

(4) F*TRAN+ V3.0 操作説明書・マルチレコード編

マルチレコードレイアウトのファイルを変換する場合に、お読みください。

(5) F*TRAN+ V3.0 操作説明書・プログラム応用編

F*TRAN+をアプリケーションから利用する場合に、お読みください。

お客様登録カード

ユーザー登録のための用紙です。

必要事項をご記入のうえ、すみやかに弊社あてにFAXでお送りください。登録されていない場合、サポート・サービスを受けられない場合があります。

1.2 ハードディスクへのインストール

F * T R A N + V 1 . 0 がインストールされている環境では

F * T R A N + V 1 . 0 がインストールされているパソコンに、V 3 . 0 をインストールする場合は、つぎの手順で行なってください。

セットアップで必要な情報をメモする（第2章を参照）

V 3 . 0 をインストールすると、変換設定が標準の状態に戻ります。変換設定を標準以外で使用する場合は、変更点を確認しておくといでしょう。

上書きインストールをする

V 1 . 0 がインストールされている環境（V 1 . 0 のアンインストールを行なわない）で、V 3 . 0 のインストールを行ないます。V 3 . 0 をインストールする際、V 1 . 0 のインストールディレクトリを選択（標準では同じになっている）してください。

V 3 . 0 をインストールしても、V 1 . 0 で作成したファイル（スクリプトファイル、パラメータファイルなど）はインストールしたディスク内に残ります。

F * T R A N + V 2 . x がインストールされている環境では

F * T R A N + V 2 . x がインストールされているパソコンに、V 3 . 0 をインストールする場合は、つぎの手順で行なってください。

上書きインストールをする

V 2 . x がインストールされている環境（V 2 . x のアンインストールを行なわない）で、V 3 . 0 のインストールを行ないます。V 3 . 0 をインストールする際、V 2 . x のインストールディレクトリを選択（標準では同じになっている）してください。

V 3 . 0 をインストールしても、V 2 . x で作成したファイル（スクリプトファイル、パラメータファイルなど）はインストールしたディスク内に残ります。

F * T R A N + V 2 . x の変換設定、漢字対応表を引き継ぐ

F * T R A N + V 3 . 0 を標準のままインストールすると、V 2 . x の変換設定、漢字対応表が引き継がれます。変換設定、漢字対応表を出荷時の設定にしたい場合は、インストール時の「変換設定 / 漢字対応表を引き継ぐ」のチェックボックスをOFFにして、インストールを行なってください。なお、V 2 . x の変換設定を引き継いだ場合には、**第2章 セットアップ**を行なう必要はありませんが、変換設定に誤りがないか確認してください。

準備

F * T R A N + の提供 C D - R O M を用意します。

作業

(1) インストールプログラムを立ち上げる

<Windows NT 4.0、Windows 2000の場合>

Windows NT 4.0 または Windows 2000 を起動します。

システム管理者の資格のユーザでログインします。 例：Administrator

(システム管理者の資格のないユーザでは、インストールに失敗します。)

提供 C D - R O M をドライブにセットします。

F * T R A N + のインストールプログラムが自動で起動します。

<Windows 98、Windows 95の場合>

Windows 98 または Windows 95 を起動します。

提供 C D - R O M をドライブにセットします。

F * T R A N + のインストールプログラムが自動で起動します。

(2) インストールプログラムの選択

以下のインストールプログラムの選択を行ないます。

- ・ F * T R A N + のインストール
- ・ A c r o b a t R e a d e r のインストール

最初に「F * T R A N + のインストール」ボタンをクリックします。



ここをクリックして、「F * T R A N + 」のインストールを始めます。

(3) F*TRAN+本体のインストール

「F*TRAN+」のインストールを続行する場合は、
“次へ(N)>”のボタンをクリックします。



名前、会社名、シリアル番号を入力します。通常は、名前と会社名は表示されていますので、シリアル番号（提供パッケージに同梱）のみを入力します。



「F*TRAN+」をインストールするディレクトリを決めます。通常は、表示されているディレクトリのままで、「次へ(N)>」のボタンをクリックします。インストールディレクトリを変更する場合は、「参照(R)」ボタンをクリックします。



オンラインマニュアルのインストール選択をします。

V2.xからのインストールでは、「変換設定 / 漢字対応表を引き継ぐ」の選択をします。チェックボックスのON/OFFによる選択が決定したら、「次へ(N)>」のボタンをクリックします。



「F*TRAN+」のプログラムフォルダを決めます。通常は、表示されているプログラムフォルダのままで、「次へ(N)>」のボタンをクリックします。



ここで、「F*TRAN+」のインストールが始まります。

「F*TRAN+」のインストールが完了したら、そのままのダイアログの状態で、「終了」ボタンをクリックします。(F*TRAN+を正常な状態で使用するには、インストール後に再起動しなければなりません。)



「Acrobat Reader」をインストールしない場合は、提供CD-ROMをドライブから取り出してください。これでインストール作業は完了です。

< Acrobat Reader をインストールする場合 >

オンラインマニュアル表示ソフトウェア「Acrobat Reader」をインストールする場合は、再度、インストールプログラムを立ち上げます。(4ページを参照)

インストールプログラムが立ち上がったら、

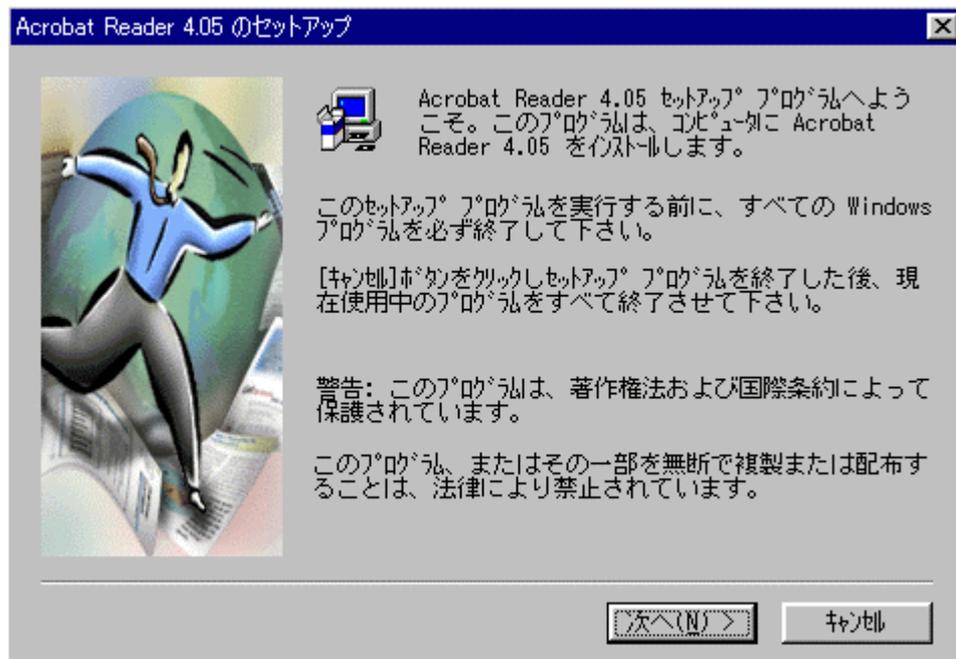
「Acrobat Readerのインストール」ボタンをクリックし、

～ の手順に従って、「Acrobat Reader」のインストールを行ないます。

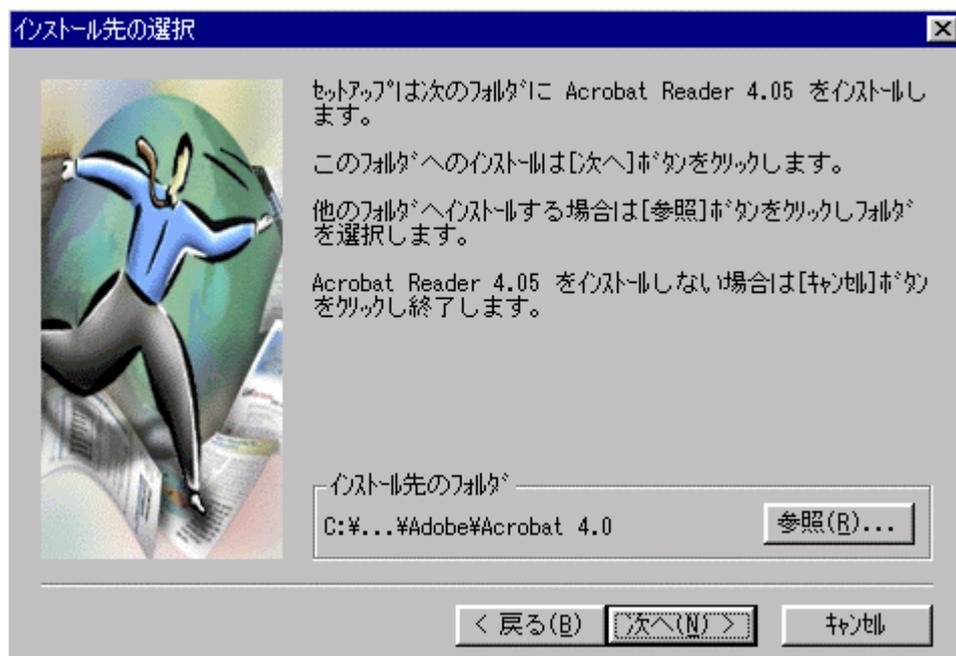


ここをクリックして、「Acrobat Reader」のインストールを始めます。

「Acrobat Reader」のインストールを続行する場合は、“次へ(N) >”のボタンをクリックします。



「Acrobat Reader」をインストールするディレクトリを決めます。通常は、表示されているディレクトリのままで、“次へ(N) >”のボタンをクリックします。インストールディレクトリを変更する場合は、“参照(R)”ボタンをクリックします。



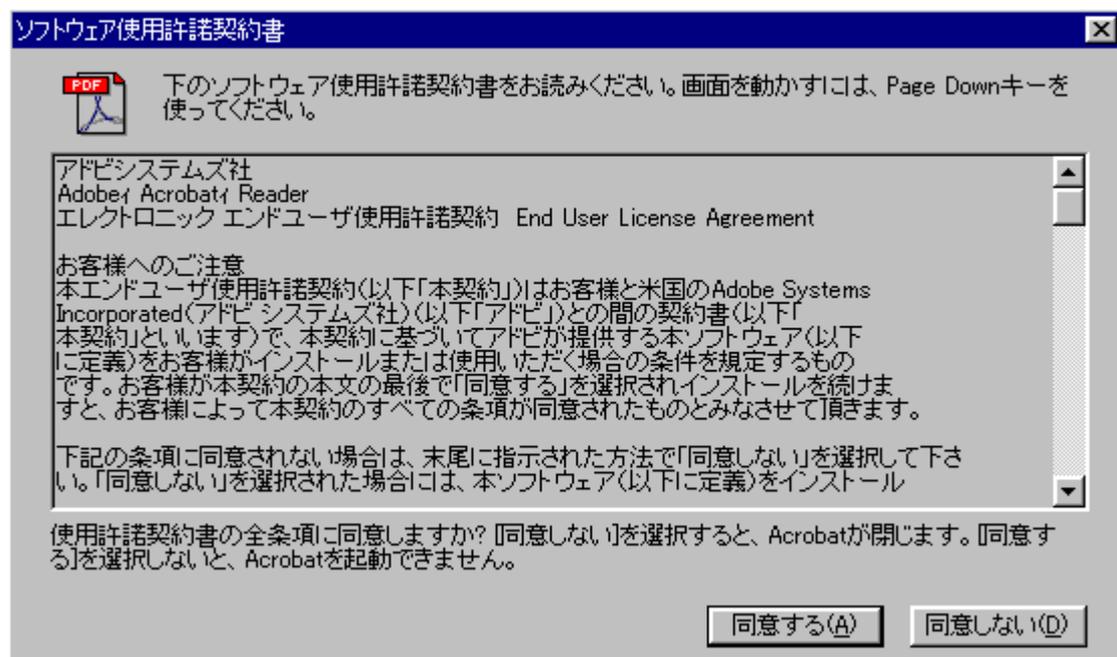
ここで、「Acrobat Reader」のインストールが始まります。

「Acrobat Reader」のインストールが完了したら、OKボタンをクリックして「Acrobat Reader」のインストールを終了します。



これで、すべてのインストールが完了しました。
提供CD-ROMをドライブから取り出してください。

インストールが完了したら、デスクトップ上の「Acrobat Reader」のアイコンをダブルクリックしてください。
つぎのウィンドウが表示されたら、“同意する(A)”ボタンをクリックします。
これで、「Acrobat Reader」が起動できるようになります。



問い合わせに備えて

インストール時に設定した情報は、F*TRAN+のヘルプのバージョン情報のウインドウに表示されます。



これらは、後日の問い合わせのときに必要になります。さらに購入元、購入担当者名、購入年月日もわかるようにしておけば万全です。

補助文書ファイル

F*TRAN+のインストール後のディレクトリには、本書を補うことがらが書かれたテキストファイル `README.TXT` というファイルがあります。
必ずお読みください。

1.3 アンインストールの実行

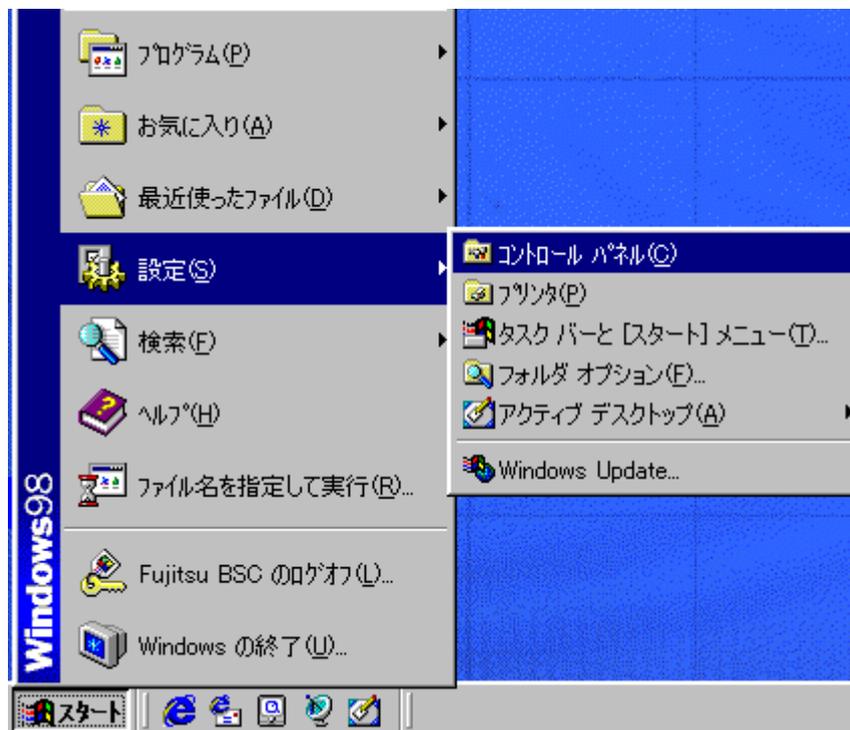
ハードディスクにインストールした、F * T R A N + をアンインストール(削除)する場合は、つぎの方法で実行してください。

アンインストールプログラムを実行する

(1) Windows 98、Windows 95の場合

Windows 98 または Windows 95 を起動します。

スタートメニューより、設定(S) コントロールパネル(C) をクリックします。



“コントロールパネル”のダイアログが表示されたら、
 “アプリケーションの追加と削除”のアイコンをダブルクリックします。

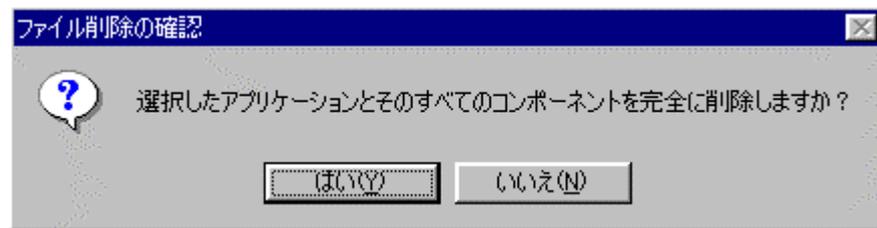


“アプリケーションの追加と削除のプロパティ”のダイアログが表示されたら、
 アプリケーション一覧の中から“F*TRAN+”をクリックし、
 “追加と削除 (R)”のボタンをクリックします。

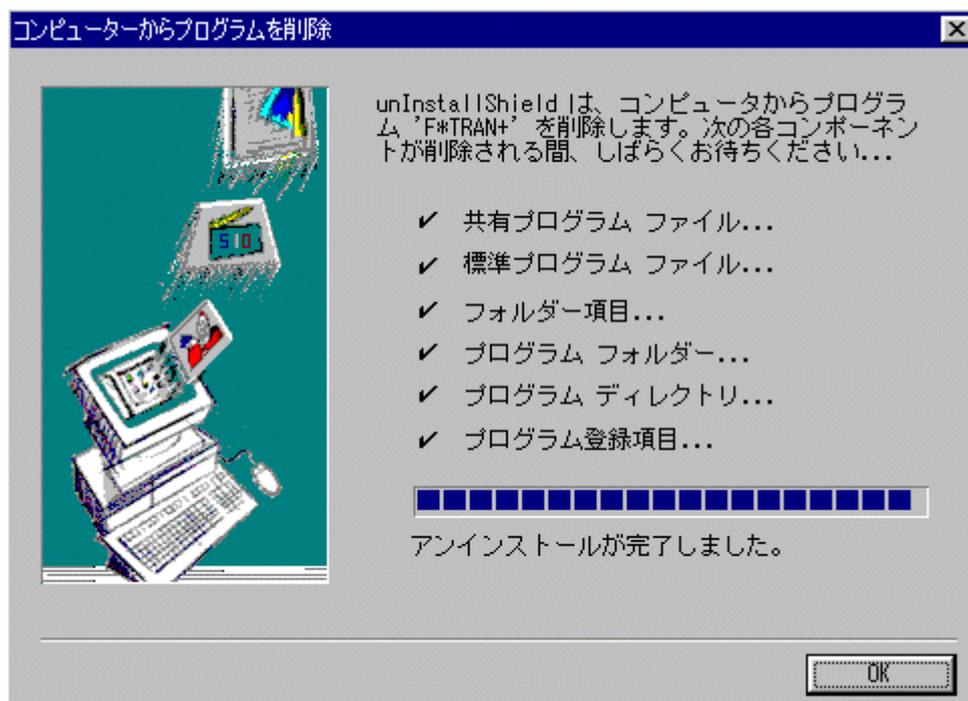


“ファイル削除の確認”のダイアログが表示されたら、
“はい(Y)”ボタンをクリックします。

F*TRAN+のアンインストールプログラムが起動し、アンインストールが始まります。



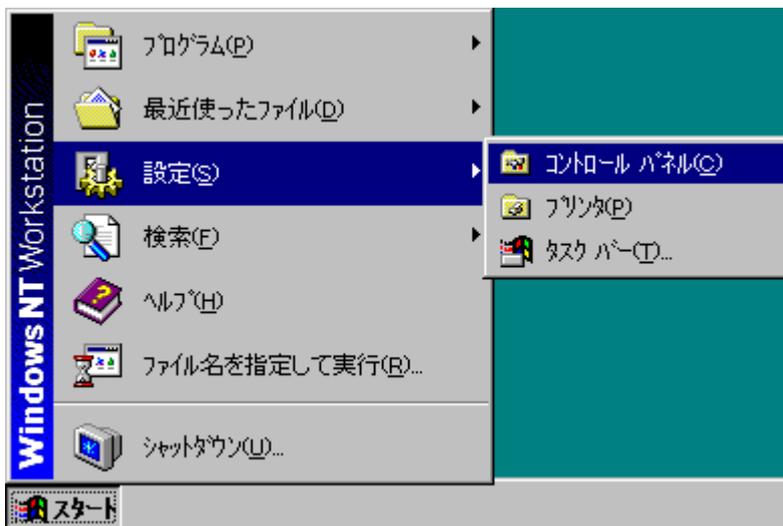
アンインストールが完了したら、“OK”ボタンをクリックします。



(2) Windows NT 4.0、Windows 2000の場合

Windows NT 4.0 または Windows 2000を起動します。

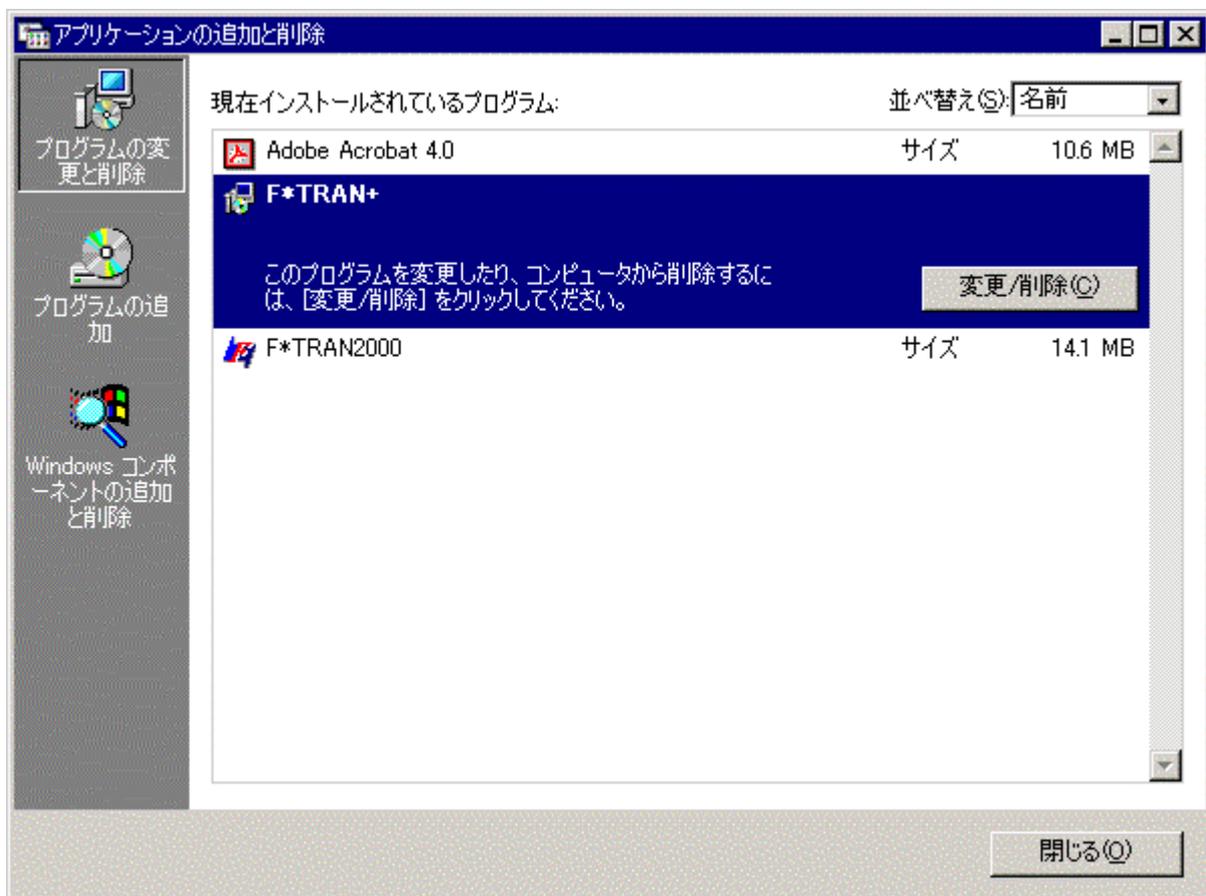
スタートメニューより、設定 (S) コントロールパネル (C) をクリックします。



“コントロールパネル”のダイアログが表示されたら、
“アプリケーションの追加と削除”のアイコンをダブルクリックします。



“アプリケーションの追加と削除のプロパティ”のダイアログが表示されたら、アプリケーション一覧の中から“F*TRAN+”をクリックし、



Windows NT 4.0の場合は、追加と削除 (R) ボタンをクリックします。
Windows 2000の場合は、変更/削除 (C) ボタンをクリックします。

“ファイル削除の確認”のダイアログが表示されたら、
“はい (Y)” ボタンをクリックします。

F*TRAN+のアンインストールプログラムが起動し、アンインストールが始まります。



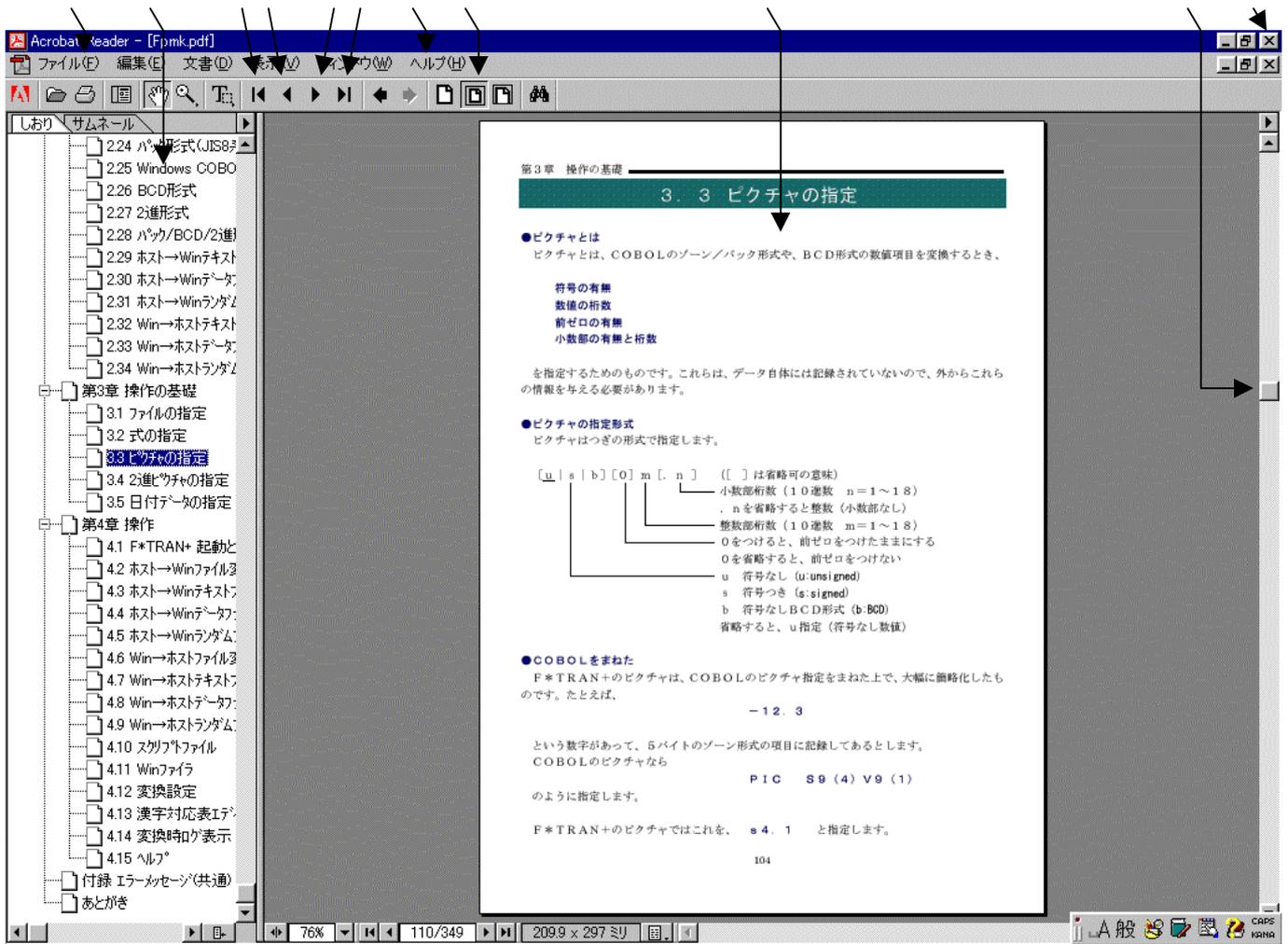
アンインストールが完了したら、“OK” ボタンをクリックします。



1.4 オンラインマニュアルについて

スタートメニューより、プログラム(P) F-TRAN+ オンラインマニュアル(コマンド編/解説編/導入編/マルチレコード編/プログラム応用編)を選択すると、つぎのウィンドウが表示されます。

オンラインマニュアルはすべて、「Acrobat Reader 4.0」上で表示され、印刷もできます。「Acrobat Reader」のおもな操作方法は、つぎのとおりです。



ファイル(F)メニューの中に印刷機能があります。マニュアルの印刷を行なう場合は、印刷設定(R)をしてから、印刷(P)を行なってください。

しおり(マニュアルの目次)が表示されています。表示されている見出しをクリックすると、その表示がクリックした見出しの内容になります。

の表示が開始ページの内容になります。

の表示が前ページの内容になります。

の表示が次ページの内容になります。

の表示が最終ページの内容になります。

ヘルプ (H) メニューの中の Reader オンラインガイド (R) を選択すると、「Acrobat Reader」の操作方法等についての詳しい説明を見ることができます。の表示方法を選択するボタンが3つあります。ここに、マニュアルの内容が表示されています。スクロールバーを動かして特定ページの頭出しをすると、 の表示内容が変わります。ここをクリックして、「Acrobat Reader」を終了します。

オンラインマニュアルの印刷

オンラインマニュアルは、F * T R A N + を使いながら立ち上げて見ることができますが、プリンタをお持ちであれば、オンラインマニュアルを印刷することをお勧めします。

第2章



セットアップ

2.1 セットアップとは

インストールがすんだら、つぎの作業は「セットアップ」です。F * T R A N +でいうセットアップとは、コード変換表ファイルを選択・修正して、利用者ごとの運用形態に合わせる作業のことです。

セットアップは何度でもできる、する

セットアップは、ふつうインストール直後に1回だけ行ないます。しかし、何度やり直しをしてもかまいません。運用形態が変わったり、相手ホストがかわったりしたときに、よくセットアップのやり直しが必要になります。

2.2 コード変換表とは

F * T R A N + の動作を決める重要なファイルである、コード変換表(ファイル)について説明します。

コード変換表(ファイル)とは

コード変換表とは、A N Kコードや漢字変換方式の設定、E B C D I C変換に使うA N K変換表などが記録されている、拡張子が . C C T のファイルのことです。

コード変換表ファイルというときと、単にコード変換表というときがあります。コード変換表ファイルというときは、メモリに読み込まれる前のディスク上のコード変換表を指します。単にコード変換表というときは、ディスク上にあるときの状態とメモリに読み込まれた状態の総称です。

通常、コード変換表ファイルは、F * T R A N + の起動時にインストールディレクトリからメモリに読み込まれます。F * T R A N + は起動時に読み込んだコード変換表を参照してA N K変換、漢字変換、数値変換などを行ないます。これがないと、F * T R A N + は動作を決めることができません。そのため、

コード変換表ファイルが見つからないとF * T R A N + は起動すらできない

という制約があります。

出荷時にはつぎのコード変換表が提供されています。

< 汎用機・オフコン用 >

F - T R A N . C C T	汎用機・オフコン用(標準)のコード変換表
F . C C T	富士通方式用のコード変換表(F - T R A N . C C Tと同様)
H . C C T	日立方式用のコード変換表
N . C C T	N E C方式漢字変換用のコード変換表
N A . C C T	N E C方式A N K変換用のコード変換表
T . C C T	東芝方式用のコード変換表
I . C C T	I B M方式用(標準)のコード変換表
I 2 . C C T	I B M方式用(コードページ 290/1027)のコード変換表
I O R G . C C T	I B M方式用(オリジナル)のコード変換表
M . C C T	三菱方式用のコード変換表
U . C C T	日本ユニシス方式用のコード変換表

<Unix用>

UNIX.CCT	Unix用(標準)のコード変換表
U-EUCJP.CCT	eucJP-open用のコード変換表
U-FU.CCT	富士通U90系用のコード変換表
U-FS.CCT	富士通Sファミリ用のコード変換表
U-FD.CCT	富士通DSシリーズ用のコード変換表
U-I.CCT	日本IBM AIX用のコード変換表
U-H.CCT	日立用のコード変換表
U-N.CCT	NEC用のコード変換表
U-SUN.CCT	サンマイクロ Soralis用のコード変換表
U-HP.CCT	日本HP用のコード変換表

<Windows用>

WIN.CCT	Windows相互変換用(標準)のコード変換表
---------	-------------------------

ふつうは、この中からホストのタイプに合ったコード変換表を選択し、自社用にセットアップして使います。なお、利用者がさらに別のコード変換表を作って使うこともできます。

2.3 コード変換表の出荷時設定

標準提供のコード変換表ファイルについて、出荷時の設定がどのようになっているか説明します。

コード変換表の出荷時設定（汎用機・オフコン用）

F - TRAN . CCT

汎用機・オフコン用（標準）のコード変換表ファイルです。

ANKコード	EBCDIC（カタカナ）	JIS8 / ASCII
漢字変換方式	富士通JEF方式（ほか、10数種類が登録済み）	
ANK変換表	ほぼ標準的と思われる設定	
コメント	「標準設定」	

F . CCT

富士通のシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。出荷時の設定は、上のF - TRAN . CCTとほぼ同じです。

ANKコード	EBCDIC（カタカナ）	JIS8 / ASCII
漢字変換方式	富士通JEF方式（ほか、10数種類が登録済み）	
ANK変換表	ほぼ標準的と思われる設定	
コメント	「富士通方式用」	

H . CCT

日立のシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。

ANKコード	EBCDIC（カタカナ）	JIS8 / ASCII
漢字変換方式	日立KEIS方式（ほか、10数種類が登録済み）	
ANK変換表	ほぼ標準的と思われる設定	
コメント	「日立方式用」	

N . C C T

NEC方式の漢字変換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。NEC内部コード(E)を扱うときは、このコード変換表をお使いください。

ANKコード	EBCDIC (カタカナ)	JIS8 / ASCII
漢字変換方式	NEC JIPS (E)方式 (ほか、9種類が登録済み)	
ANK変換表	NEC方式。ただし英小文字は英大文字に変換する	
コメント	「NEC方式漢字変換用」	

NA . C C T

NEC方式のANK変換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。漢字変換もできますが、NEC内部コード(E)には対応していないのでご注意ください。

ANKコード	EBCDIC (カタカナ)	JIS8 / ASCII
漢字変換方式	変更しないでください NEC JIPS (E)方式。英小文字が有効 NEC JIPS (J) NEC内部コード(J)も登録済み (ほか、4種類が登録済み)	
ANK変換表	NEC方式。修正しないでください	
コメント	「NEC方式ANK変換用」	

T . C C T

東芝のシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。

ANKコード	JIS8 / ASCII	JIS8 / ASCII
漢字変換方式	東芝方式 (漢字コードはJIS) (ほか、4種類が登録済み)	
ANK変換表	あるが、使わない	
コメント	「東芝方式用」	

I . C C T / I 2 . C C T / I O R G . C C T

I B Mのシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。

ANKコード	E B C D I C (カタカナ)	J I S 8 / A S C I I
漢字変換方式	I B M漢字方式 (ほか、4種類が登録済み)	
ANK変換表	ほぼ標準的と思われる設定 (3種類)	
コメント		
I . C C T	「I B M方式用 (標準)」	
I 2 . C C T	「I B M方式用 (コードページ209 / 1027)」	
I O R G . C C T	「I B M方式用 (オリジナル)」	

I . C C TとI 2 . C C Tは、ANK変換表がI B M社の規格で改訂されています。カタカナ版では、英小文字は英大文字に変換します。

I O R G . C C TはV 2 . 5に添付されていたI B Mホスト用のコード変換表ファイルです。

M . C C T

三菱のシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。

ANKコード	E B C D I C (カタカナ)	J I S 8 / A S C I I
漢字変換方式	三菱M E L C O M方式 (ほか、10数種類が登録済み)	
ANK変換表	ほぼ標準的と思われる設定	
コメント	「三菱方式用」	

U . C C T

日本ユニシスのシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。

ANKコード	E B C D I C (カタカナ)	J I S 8 / A S C I I
漢字変換方式	日本ユニ시스L E T S - J方式 (ほか、10数種類が登録済み)	
ANK変換表	ほぼ標準的と思われる設定	
コメント	「日本ユニ시스方式用」	

コード変換表の出荷時設定 (Unix用)

Unix用のコード変換表はつぎのような名称(コメント)になっており、

UNIX.CCT	「標準設定(Unix)」
U-EUCJP.CCT	「eucJP-open用」
U-FU.CCT	「富士通U90系用」
U-FS.CCT	「富士通Sファミリ用」
U-FD.CCT	「富士通DSシリーズ用」
U-I.CCT	「日本IBM AIX用」
U-H.CCT	「日立用」
U-N.CCT	「NEC用」
U-SUN.CCT	「サンマイクロ Soralis用」
U-HP.CCT	「日本HP用」

漢字変換方式は、EUCコードに設定されています。それぞれのコード変換表は、メーカー固有の漢字対応表情報を持っています。

コード変換表の出荷時設定 (Windows用)

Windows用のコード変換表はつぎのような名称(コメント)になっており、

WIN.CCT	「標準設定(Windows)」
---------	-----------------

漢字変換方式は、シフトJISに設定されています。

2.4 セットアップの手順

セットアップの手順

セットアップ作業は、つぎの手順で行ないます。

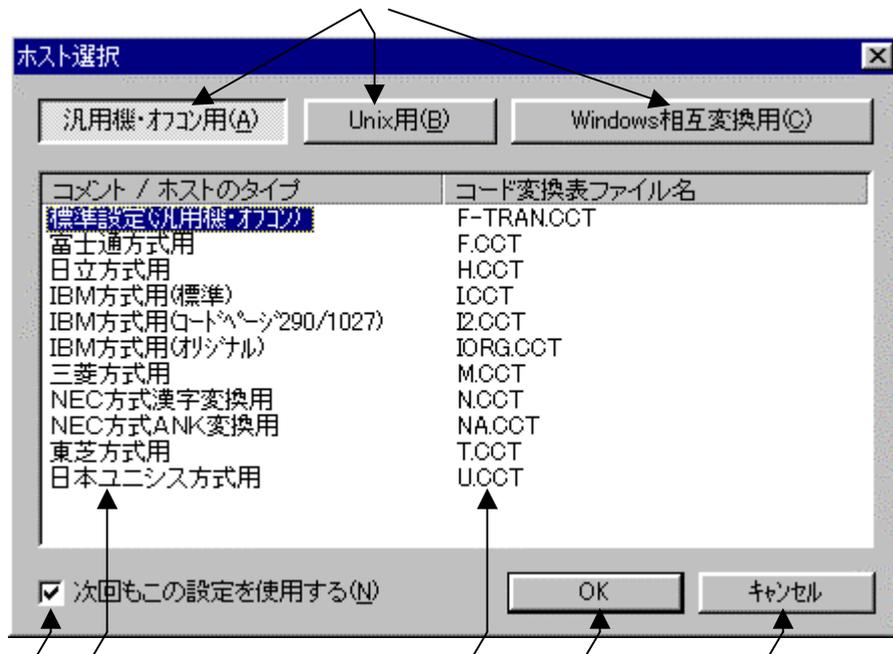
- (1. F * T R A N + を起動する。)
2. 変換設定メニューの「ホスト選択」を行なう。
3. 変換設定メニューの「変換設定」を行なう。
提供時の設定で問題なければ、変更する必要はありません。
以下の項目を環境に合うように設定・確認してください。
 - コメント / ホストのタイプの設定
 - 漢字変換方式の設定
 - 漢字対応表の設定
 - ホストCOBOLベンダの設定
 - Windows COBOLベンダの設定
 - ホストエンディアンの設定
 - ANKコードの設定
 - ANK変換表の編集
4. コード変換表の保存
設定が完了したら、コード変換表をハードディスクに保存してください。
(保存しないで、試行することも可能です。)
- (5. F * T R A N + を終了する。)

以上です。

スタートメニューより、プログラム(P) F - T R A N + をクリックして、F * T R A N + を起動してください。(アイコン登録しておけば、アイコンをダブルクリックすることで、F * T R A N + を起動できます。)

2.5 ホスト選択

最初に、メニューバーの変換設定 (S) ホスト選択 (H) をクリックし、つぎのウインドウを開きます。ここで、基準となるホストを選択します。



ホスト系を汎用機・オフコン用 (A)、Unix用 (B)、Windows用 (C) のボタンで選択します。

選択できるホストのタイプが表示されるエリアです。

使用しているホストに合った項目をクリックして選択します。

実際に設定されているコード変換表ファイル名が表示されるエリアです。

選択したホストの情報を保存するためのチェックボックスです。

次回に F * T R A N + を起動した時に、選択したホストを基準にする場合は、ONにします。

一時的にホストを変更する場合は、OFFにします。デフォルトは、ONです。

セットアップでは、ONのままにします。

の選択が完了した状態でOKボタンをクリックすると、基準となるホストが確定します。

キャンセルボタンをクリックすると、ホスト選択を中止します。

2.6 変換設定

つぎに、メニューバーの変換設定 (S) 変換選択 (S) をクリックし、つぎのウインドウを開きます。ここで、コード変換に関する設定等をします。



読み込まれているコード変換表のファイル名が表示されています。

コメントの変更ができます。

コード変換表は、漢字20文字(半角40文字)以内のコメントをつけることができます。

漢字変換方式の選択項目です。どの漢字変換方式を使うかを割り当てます。

漢字変換方式の設定変更ボタンです。漢字変換方式の設定内容を細かに変更できます。

漢字変換時に使われる漢字対応表を選択することができます。

選択されている漢字対応表を有効にするチェックボックスです。

漢字対応表エディタを起動するボタンです。漢字対応表の修正ができます。

ホストがUnix、Windowsの場合、ホストCOBOLのベンダを選択します。

ホストCOBOLのゾーン形式データを変換する時に重要になります。

Windows COBOLのベンダを選択します。

Windows COBOLのゾーン形式データを変換する時に重要になります。

ホストエンディアン（ホストの2進項目のデータ格納順）を選択します。

ANKコードの選択項目です。ホスト系が、JIS8 / ASCII系か、EBCDIC系かを設定します。EBCDIC系の場合、カタカナ版か英小文字版の選択をします。

ANK変換表の編集ボタンです。

6つのANK変換表（1バイト単位のコード変換表）の表示・修正ができます。

コード変換表の書き込み（保存）を行ない、変換設定のウインドウを閉じます。

修正したコード変換表を元のファイルに書き戻したり、

別の名前のコード変換表としてディスクに書き込んだりします。

OKボタンをクリックすると、修正した変換設定が有効になります。ただし、

あくまでメモリ上の変更であり、コード変換表ファイルに書き込まれるわけではありません。

キャンセルボタンをクリックすると、修正した変換設定を無効にし、

変換設定のウインドウを閉じます。

マップ解析の機能をON/OFFするチェックボックスです。デフォルトは、OFFです。

詳細は、操作説明書 / マルチレコード編を参照してください。

コメント / ホストのタイプの設定

コード変換表にはコメント / ホストのタイプをつけておくことができます。セットアップ内容を反映したコメントをつけておくと、安全な操作が期待できます。

漢字変換方式の設定

漢字を扱うなら、必ずこの設定をしなければいけません。

ホストの漢字コード体系は各社各様で、統一された方式はありません。そのために、利用者が F * T R A N + に、どの方式で漢字変換するのかを教えてやらなければいけません。コード変換表には、あらかじめ数種類の漢字変換方式が登録されています。そのなかから、適するものを選択してください。

適する漢字変換方式がないとき

適する漢字変換方式がないときは、新規作成を選択し、似た設定のものを参照してアレンジし、自分で新しい漢字変換方式を登録する必要があります。

漢字変換方式の詳細設定

適する漢字変換方式（または新規作成）を選択したら、詳細設定（D）ボタンをクリックして、設定の詳細を確認します。

<ホストが汎用機・オフコンの場合>

漢字変換方式設定 (汎用機・オフコン)

名前(N): JEF

コメント(C): 富士通 JEF(12ポイント), KI/KO=28/29

ANKコード(A): EBCDIC

漢字コード(K): JIS + 8080

漢字イン(I): 28

漢字アウト(O): 29

シフト節約度(S): 中 (Win→ホストファイル変換時)

ホスト漢字スペース(B): 半角×2(4040)

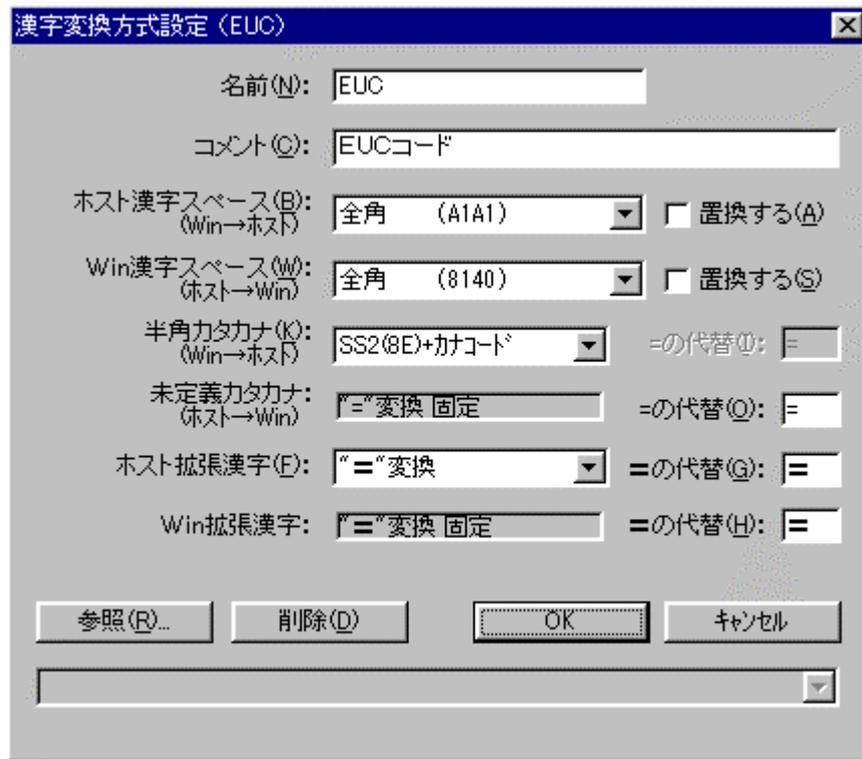
Win漢字スペース(W): 半角×2(2020)

ホスト拡張漢字(E): "=""変換 の代替(G): =

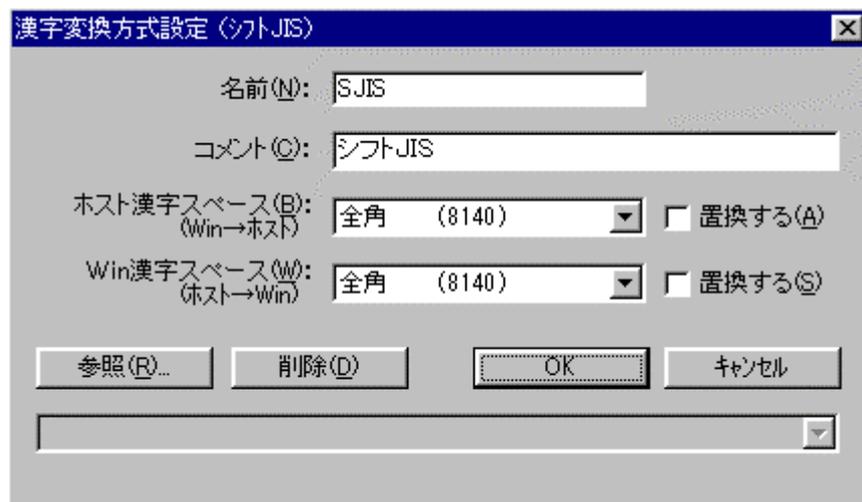
Win拡張漢字: ""=""変換 固定 の代替(H): =

参照(R)... 削除(D) OK キャンセル

<ホストがUnixの場合>



<ホストがWindowsの場合>



必要であれば、変更します。設定変更の操作自体は簡単ですが、その意味・内容はわかりにくいものです。操作説明書 / 解説編の4.1.2「変換設定」の説明を読んでから、変更を行なってください。

変更の必要がないなら、キャンセルボタンをクリックしてください。

漢字対応表の設定

漢字変換時に使われる漢字対応表を設定します。漢字体系に合った漢字対応表を選択し、有効のチェックボックスをONにします。通常は、ホスト選択をした時点で、そのホストに対応した漢字対応表が設定されていますので、変更する必要はありません。

ホストCOBOLベンダの設定

ホストCOBOLのゾーン形式データを変換する場合は、この設定が重要になります。つぎの7種類から選択できます。選択しないこともできます。

富士通	Power COBOL 97 (8 5)
日立	COBOL 8 5
NEC	COBOL 8 5
メラント	MICRO FOCUS COBOL *
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : - D c a)
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : - D c i)
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : - D c m)

*)ホストがWindowsの場合は、

メラント Net Express (MICRO FOCUS COBOL)
です。

Windows COBOLベンダの設定

Windows COBOLのゾーン形式データを変換する場合は、この設定を行ないます。つぎの7種類から選択できます。選択しないこともできます。

富士通	Power COBOL 97 (8 5)
日立	COBOL 8 5
NEC	COBOL 8 5
メラント	Net Express (MICRO FOCUS COBOL)
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : - D c a)
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : - D c i)
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : - D c m)

ホストエンディアンの設定

2進形式データを変換する場合は、この設定を行いません。ホスト2進形式のエンディアン(格納順)をつぎのどちらかに設定します。

ビッグ(正順)

リトル(逆順)

ANKコードの設定

ANKコードの設定とは、ホストの(ホストファイルの)ANKコード系として、

EBCDIC(カタカナ)コード

EBCDIC(英小文字)コード

JIS8/ASCIIコード

のどれかが使われているかを設定することです。より正確には、データ交換の相手システムがEBCDICコードを基本とするシステムか、JIS8/ASCIIコードを基本とするシステムかを設定することです。ANKコードの設定は、

ANK文字の変換(Ank変換)

だけでなく、

スペースコードの決定

ゾーン形式の数値項目の変換(Zone変換)

パック形式の数値項目の変換(Pack変換)

などにも影響します。とても重要な設定であることを忘れないでください。

大部分のホストは、EBCDIC(カタカナ)コードを採用

しています。

参考...

EBCDICは「エビスディック」と、少しなまって読みます。

JIS8/ASCIIは「ジスハチ/アスキー」です。

また、ANKは「アंक」です。

A N K 変換表の編集

6枚のA N K変換表があります。必要であれば、修正を行ないます。操作はごく簡単です。

コード変換表の保存

ここまでのセットアップ処理はメモリ上で行なわれているにすぎません。つぎからの起動時にもセットアップ作業を有効にするには、それをディスク上のコード変換表ファイルに書き戻して、保存する必要があります。変更点がなければ、キャンセルボタンをクリックして変換設定を終了します。

保存して閉じる (S) ボタンをクリックすると、“ファイル名を付けて保存” ウィンドウが開きます。通常は、このまま、保存 (S) ボタンをクリックします。

セットアップ結果を別の名前のコード変換表に保存したい場合

仮に、X . C C T という名前のコード変換表として、インストールディレクトリに保存したいとします。それには、保存 (S) ボタンをクリックして、“ファイル名を付けて保存” ウィンドウを開き、ファイル名にXを入力してから、保存 (S) ボタンをクリックします。

その後、変換設定のホスト選択でX . C C Tを選択します。

第3章

システム構成

3.1 動作OSと動作環境

F*TRAN+ V3.0 は、つぎの条件で動作します。

動作OS

Windows 98
Windows 95
Windows NT Server 4.0
Windows NT Workstation 4.0
Windows 2000 Professional
(パソコンの機種は問いません)

動作環境

画面解像度	800×600以上
メモリ	16Mバイト以上のメモリがあれば動作可能
ハードディスク	ハードディスク領域を 約20Mバイト 占有
	〔プログラム関連 約5Mバイト〕
	〔マニュアル関連 約15Mバイト〕

<最新情報の確認について>

最新情報は下記のホームページにてご確認ください。

・ホームページ : <http://www.bsc.co.jp/system/ftran/>

第4章

バージョンアップ内容

4.1 バージョンアップ内容

F*TRAN+ V2.5 から V3.0 へのバージョンアップ内容は、つぎのとおりです。

OLEオートメーションに対応

OLEオートメーションに対応し、利用範囲が格段に広がりました。

- ・F*TRAN+をユーザアプリケーションの「部品」として使用することができます。いままでのコマンド行方式では困難であった処理も柔軟に構築できます。
- ・ホストファイルのデータをExcelの指定領域へ流し込む処理のサンプルプログラム等が添付されています。

Unix Windows のデータ変換をサポート

F*TRAN+では、ホストとして汎用機やオフコンをターゲットとしてきましたが、V3.0からはUnixもサポートしました。

Unixデータ(可変長/固定長ファイル)とWindowsデータの相互変換ができます。

- ・Unixで一般的に使用されているEUC漢字コードを本格サポートし、さらにベンダ固有の拡張漢字の変換もできます。
- ・富士通のPower COBOL 97(85)、日立のCOBOL 85、NECのCOBOL 85、メラントのMICRO FOCUS COBOL、AcucorpのAcuCOBOLなどのUnix上で動作するCOBOLデータの変換ができます。
- ・従来のWindows COBOL 4種類(富士通のPower COBOL 97(85)、日立のCOBOL 85、NECのCOBOL 85、メラントのNet Express(MICRO FOCUS COBOL))に加えてAcucorpのAcuCOBOLをサポートしました。これにより、Unix Windows間のCOBOLデータ移行を柔軟に行なうことができます。

Windows Windows のデータ変換をサポート

Windowsデータ間の変換をサポートしました。

固定長テキストファイル/CSV形式ファイル/ランダムファイル間の相互変換ができます。レコード加工/編集などを簡単に行なうことができます。

2進数値データ変換をサポート

COBOLのCOMP-5、Visual Basic、C/C++などの2進数値データ変換をサポートしました。これにより、文字/ゾーン/パック/2進数値データ間で柔軟に変換できます。

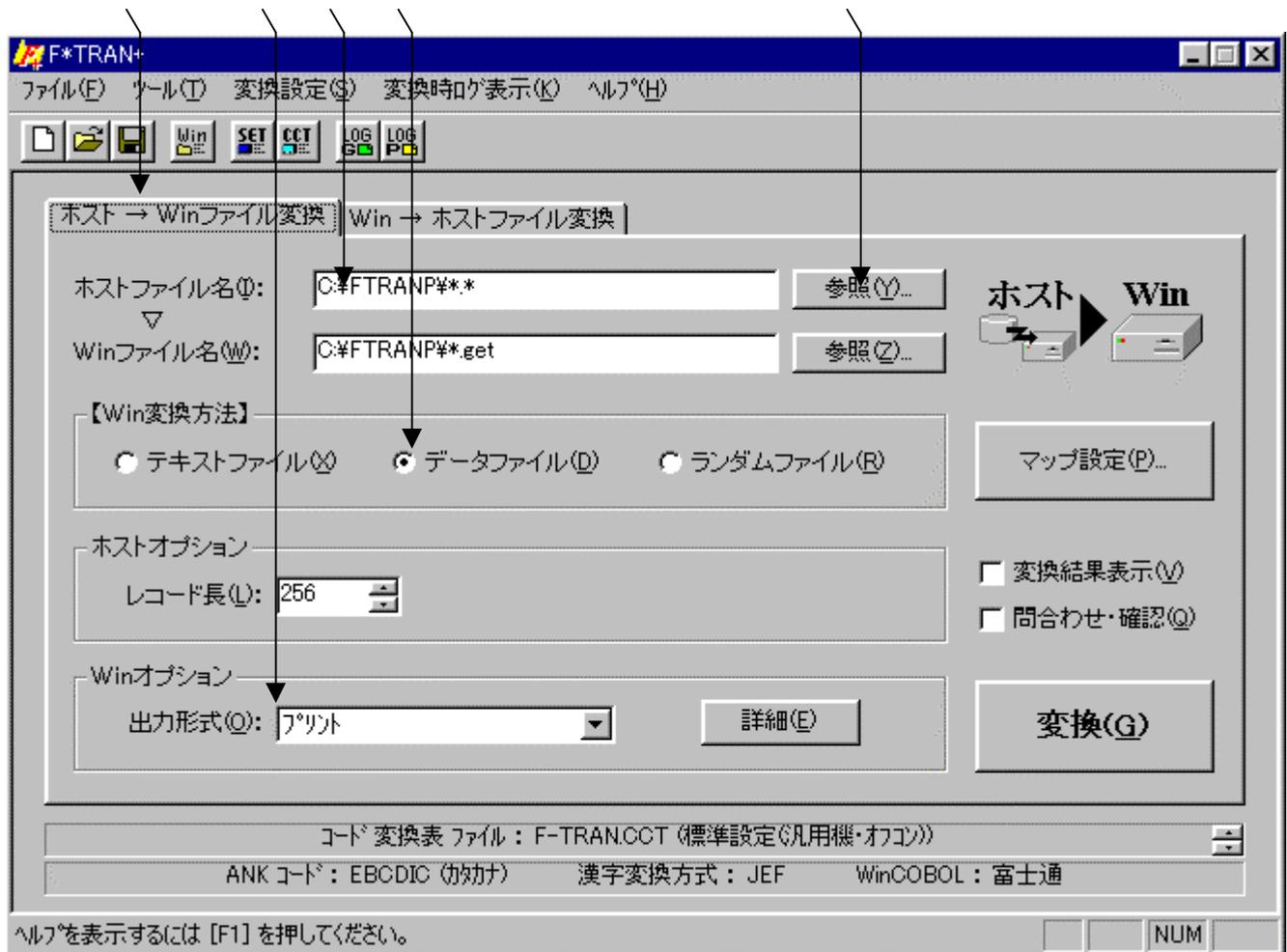
第5章

タッチ&トライ

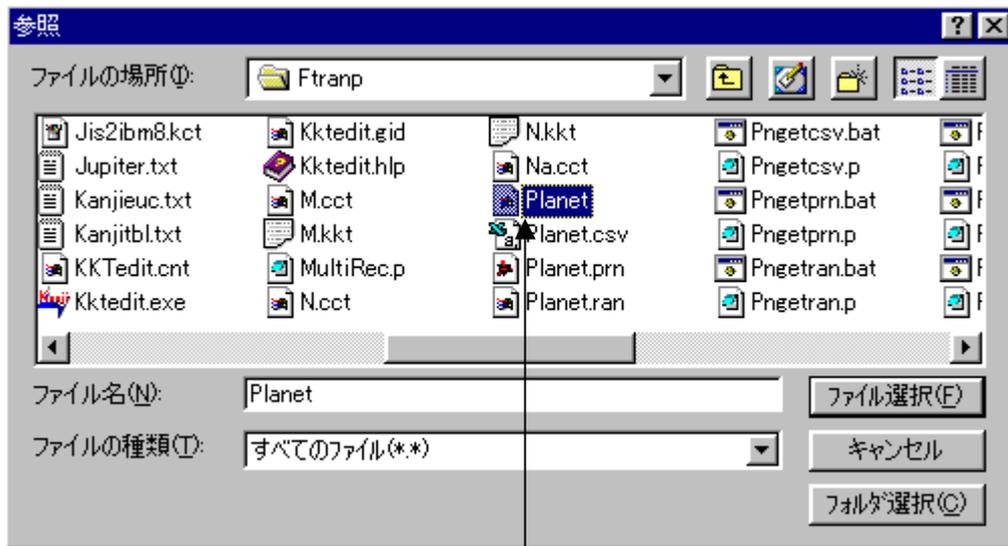
5.1 ホスト Winファイル変換

実際にサンプルデータを使って、ホストファイル“ Planet ”をWindowsファイル“ Planet.get ”に変換する作業を試して見ましょう。ここでは、ホストが汎用機・オフコンであると想定しています。

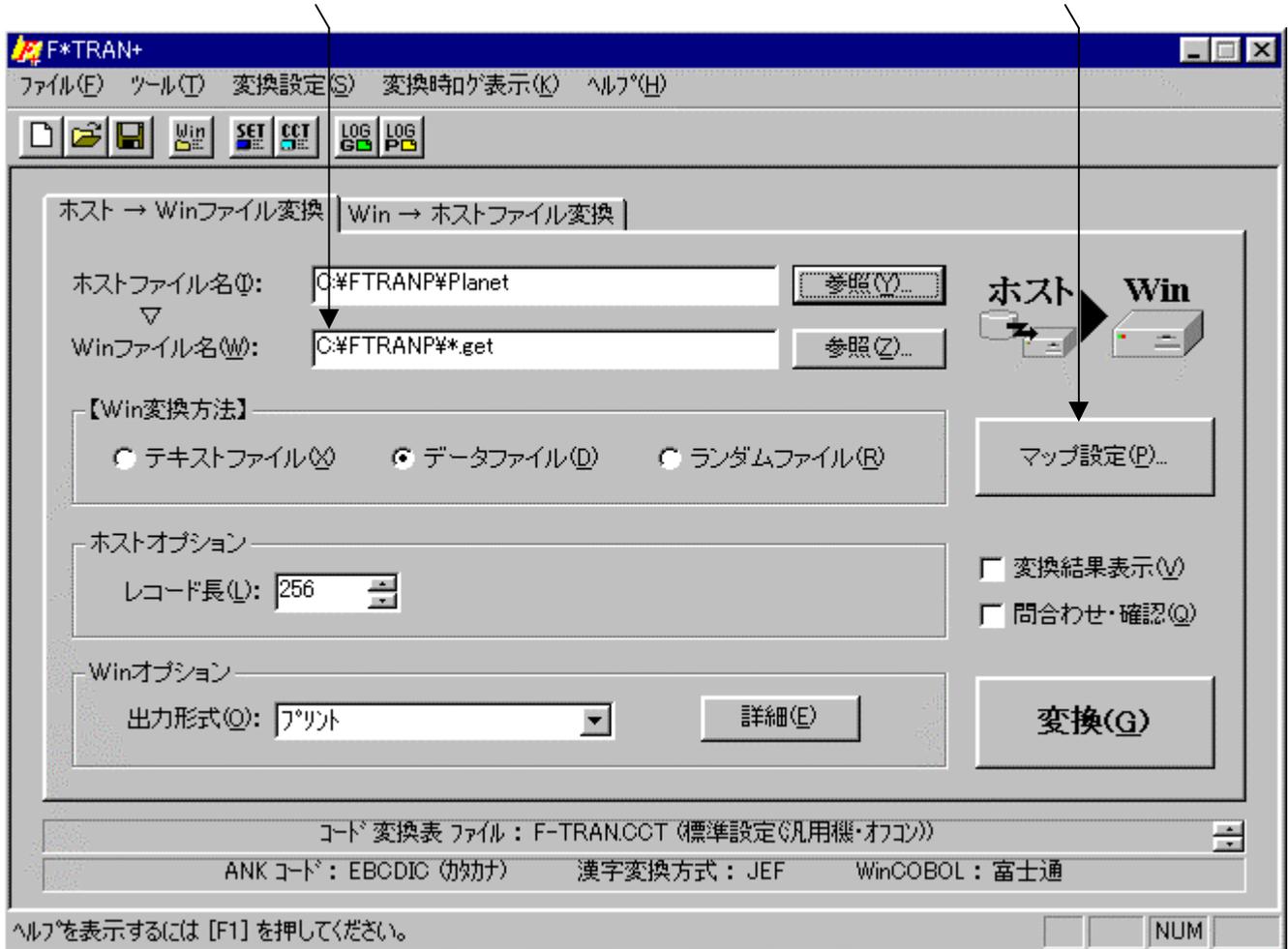
スタートメニューより、プログラム (P) F - TRAN+ をクリックして、F * TRAN+ を起動します。起動すると、つぎのメインウィンドウが立ち上がります。起動時には、ホスト Winデータファイル変換 (プリント形式) の状態になっていますが、これから行なう作業はホスト Winデータファイル変換 (プリント形式) なので、このままの状態から始めます。(下図の のところを確認してください。)



変換するホストファイル名 (I) を指定します。ファイル名がわかっている場合は、ホストファイル名の欄に “ C : ¥ F t r a n P ¥ P l a n e t ” のように入力しますが、ファイル名がわからないという前提で操作を行ないます。ホストファイル名の参照 (Y) ボタンをクリックすると、つぎのホストファイル参照ウィンドウが開きます。



ホストファイル参照ウインドウが開いたら、ウインドウの中の“ Planet ”をダブルクリックします。ダブルクリックすると、ホストファイル参照ウインドウが閉じて、メインウインドウのホストファイル名 (I) のところに“ Planet ”が指定された状態になります。



Winファイル名(W)の指定は、すでに“ ~ * . g e t ”と指定されていますので、このままの状態にします。Winファイル名はホストファイル名を引き継ぐ指定となるので、“ P l a n e t . g e t ”という名前のファイルになります。

マップ設定は、変換するデータの中に漢字やCOBOLの数値項目（パック、ゾーン形式）日付データ項目が入っている場合のファイルレイアウトを指定します。マップ設定（P）のボタンをクリックすると、つぎのウィンドウが開きます。



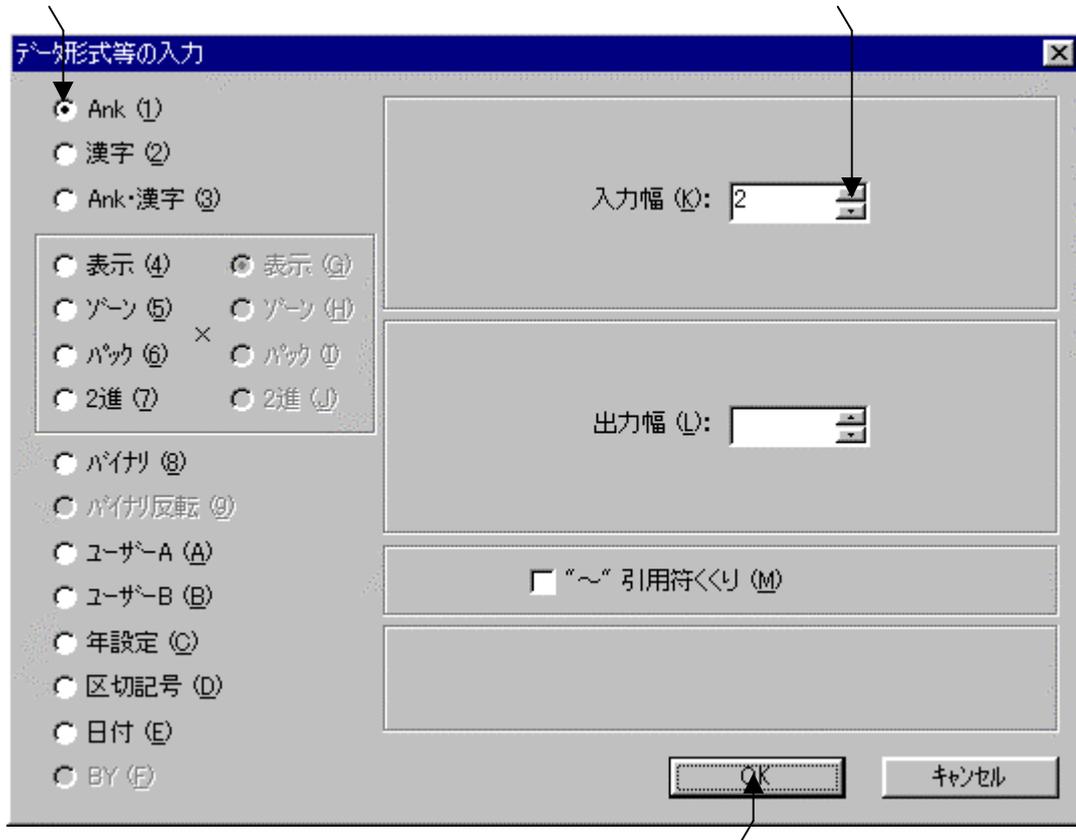
簡易設定（S）が選択されていることを確認してOKボタンをクリックすると、つぎのマップ設定（簡易）のウィンドウが開きます。



マップ設定（簡易）ウインドウのNo. 1～No. 11のデータ形式、入力幅、出力幅を、つぎのように設定します。

No	データ形式	入力幅	出力幅	コメント（入力不要）
1	Ank	2		No. (惑星番号)
2	漢字	8		和名
3	Ank	10		英名
4	Ank	9		読み
5	パック	u4.3		質量比
6	ゾーン	u2		衛星数（確定済）
7	ゾーン	s2.1		極大等級（見かけ上の最大の明るさ）
8	漢字	20		英名の意味・由来
9	年設定	w30	w30（省略可）	<1930-2029>
10	区切記号	.(ピリオド)		<9999.99.99>
11	日付	yymmd	yyyy-mm-dd	レポート提出年月日

設定はキーボードを使って直接入力してもよいのですが、つぎのように操作すると、比較的簡単に行なうことができます。No. 1のデータ形式の欄をダブルクリックすると、データ形式等の入力ウインドウが開きます。



Ank (A) をクリックして、データ形式を選択します。

入力幅の をクリックして、入力幅を2にします。

OK ボタンをクリックして、設定を確定します。

同様にNo. 2～No. 11を設定します。

No. 5～No. 7のパック/ゾーンは、整数部と小数部の指定を行ないます。

No. 7のゾーンは、入力符号ありを選択します。

No. 9の年設定は、入出力ともにウインドウ方式で1930～を選択します。

No. 10の区切記号は、ピリオド(年.月.日)を選択します。

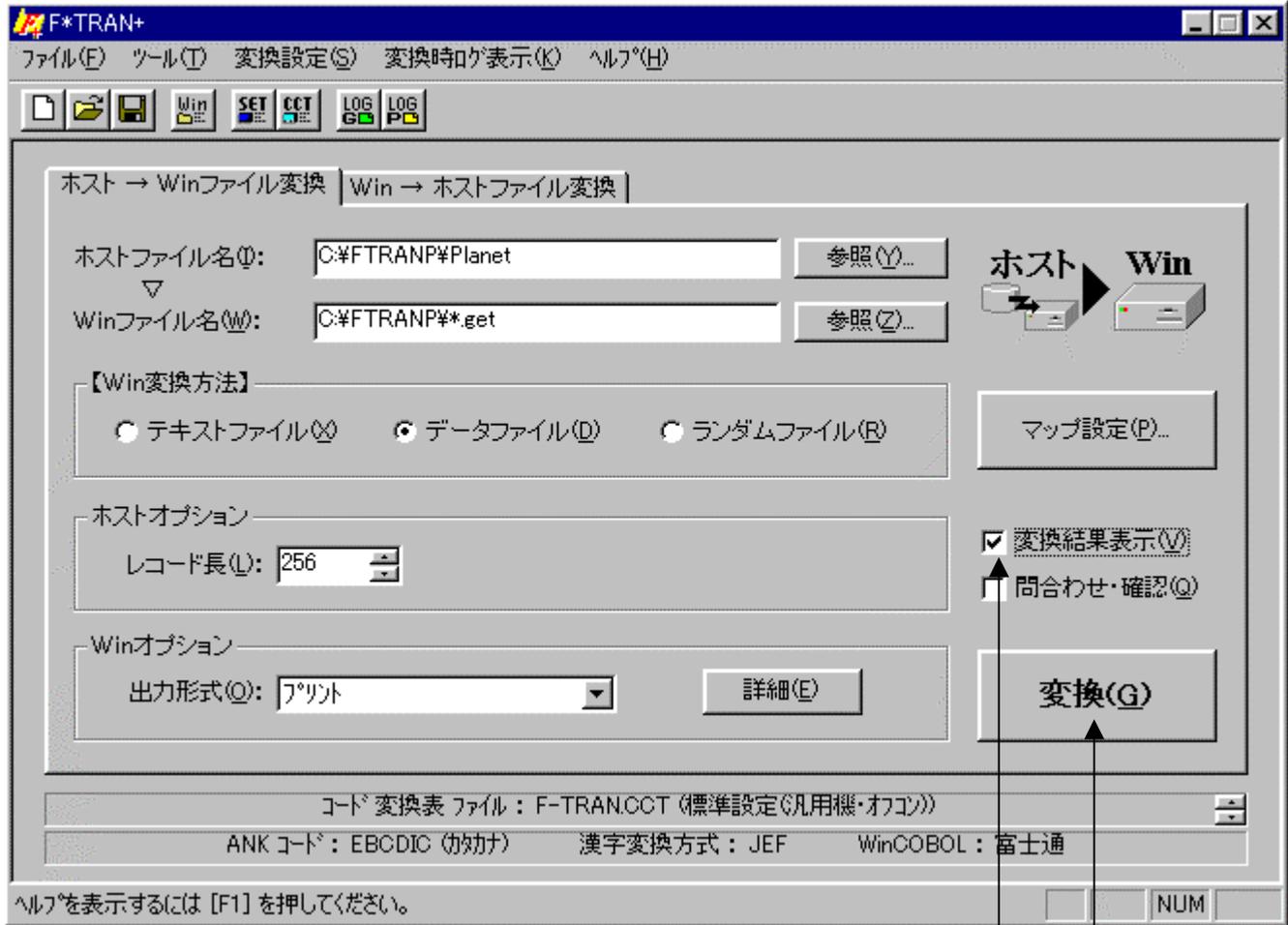
No. 11の日付は、入力にyymmdd、出力にyyyy-mm-ddを選択します。



設定がすべて完了したら、変換プレビューボタンをクリックして見ましょう。プレビューモードにすると、変換前と変換後のデータを前もって確認することができます。ここで、マップ設定が正しいかどうかを確認できます。

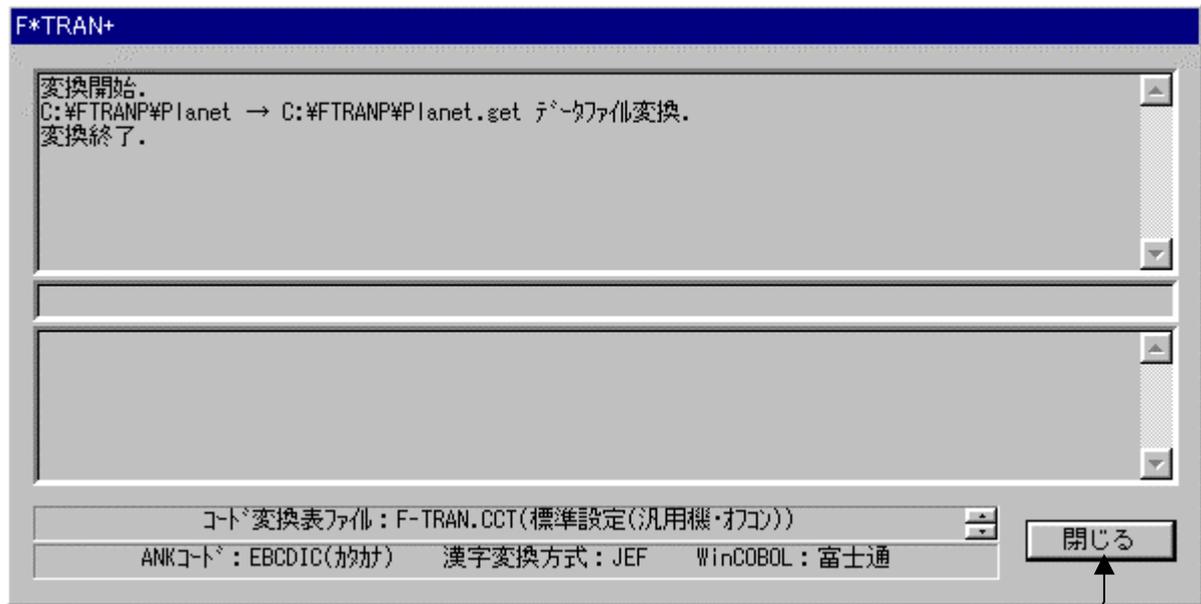
プレビューモードで、変換前/後の切り替えができます。変換後のデータが正しく表示されているかどうかを確認しましょう。確認したら、再度 の変換プレビューボタンをクリックして、プレビューモードから入力モードに戻します。

マップ設定が完了したら、OKボタンをクリックしてマップ設定を終了させます。

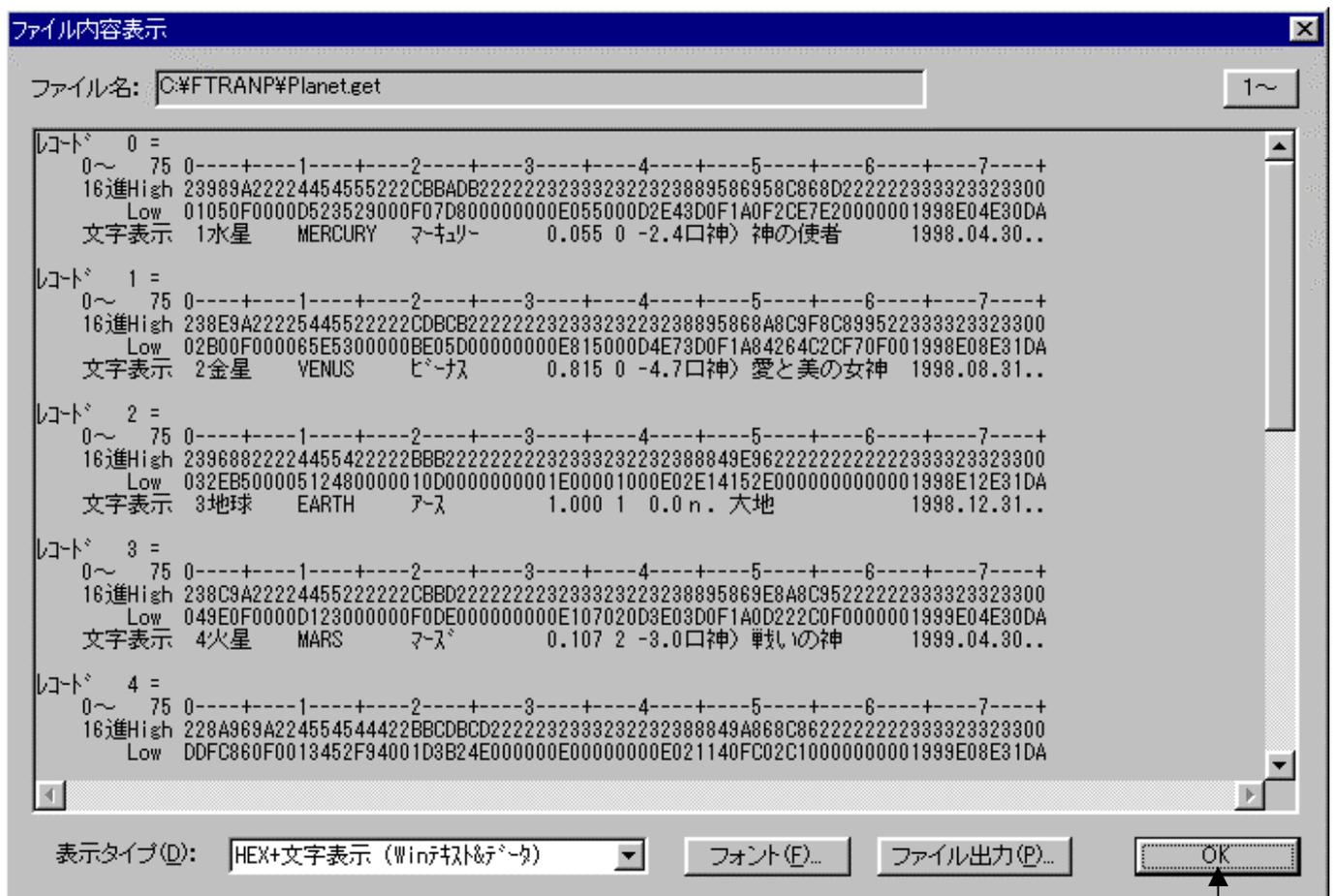


変換後にWinファイル(Planet.get)の内容を表示して確認するために、変換結果表示(V)のチェックボックスをONにします。

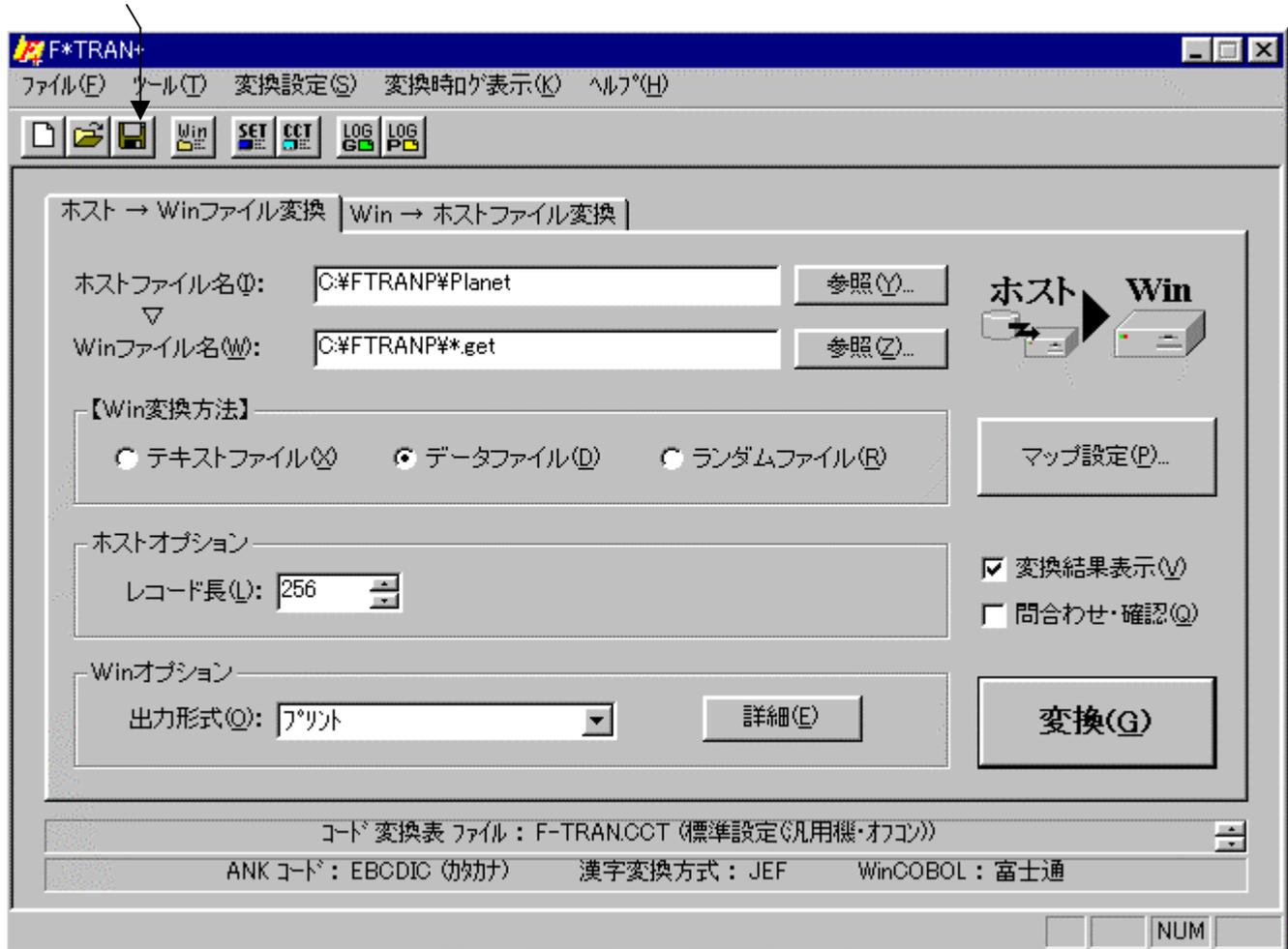
設定がすべて完了しましたので、変換(G)ボタンをクリックします。変換ボタンをクリックすると変換が始まり、変換中であることを示す実行ウインドウ(つぎのページ)が開きます。



処理が正常に終了したことを確認したら、“閉じる”ボタンをクリックします。



実行ウインドウを閉じると、つぎのファイル内容表示ウインドウが開きます。
変換結果を確認してみましょう。確認が終了したら、OKボタンをクリックします。



これで Host Win ファイル変換の一連の操作は終了しましたが、いままでに設定した内容をスクリプトファイルに保存することができます。保存する場合は、メインウインドウの“保存”のボタンをクリックします。保存設定のウインドウが表示されたら、OK ボタンをクリックし、“名前をつけて保存”のウインドウが表示されたら、ファイル名を入力し、保存 (S) ボタンをクリックします。設定が保存されます。

保存したスクリプトファイルは、“開く”ボタンをクリックすれば、いつでも呼び出すことができます。そして、エクスプローラからダブルクリックするだけで、F*TRAN+ のメインウインドウを開かずに自動実行させることができます。

第6章

サポートについて

(株)富士通ビー・エス・シー プロダクツ&サービス事業部 サポートセンター 行き

FAX : 03 - 5445 - 2109

TEL : 03 - 5476 - 2926

受付日	平成 年 月 日 時 分
受付者	

F * T R A N + 質問票

会社名		住所	〒
担当者		所属	
TEL		FAX	
		Ver	3.0
		シリアル No	_____ - _____
ホスト機種	汎用機・オフコン系 富士通 M_____ K_____ F9450_____ 他_____ 日立 M_____ L_____ 他_____ NEC ACOS_____ 3100_____ N5200_____ 他_____ 三菱 EX_____ MELCOM80_____ 他_____ 東芝 TP_____ DP_____ V_____ Q_____ 他_____ IBM 汎用機_____ AS/400_____ 他_____ Unix系 富士通 IBM 日立 NEC サマイカ HP 他機種: _____ その他 _____		
OS			
コード系	JIS8 / ASCII系 EBCDIC系 Unix 他_____		
データ内容	ANK 漢字 数値 ゴンパック BCD 日付 バイナリ 他_____		
漢字	JIS系 (東芝 JIPS(J) JIPS(E) 内部コード (J) 内部コード (E) 他) JIS+8080系 (JEF KEIS MELCOM LETS-J 他) IBM 他_____		
パソコン機種			
パソコンOS	Windows 98 95 2000 Professional NT4.0 (Server Workstation)		
パソコンソフト	Visual Basic Ver_____ Access Ver_____ (Access Basic) Visual C++ Ver_____ Excel 1-2-3 富士通 PowerCOBOL97(85) 日立 COBOL85 NEC COBOL85 Net Express(MICRO FOCUS COBOL) AcuCOBOL その他_____		
データ形式	可変長テキスト 固定長テキスト ただの固定長 (ランダム) コマ区切り (CSV) 形式 その他_____		
使用機能	ホスト Winテキストファイル (GetText) Win ホストテキストファイル (PutText) ホスト Winデータファイル (GetData) Win ホストデータファイル (PutData) ホスト Winランダムファイル (GetRand) Win ホストランダムファイル (PutRand) その他_____		
トラブル・質問の内容			
	(別紙あり 別紙なし)		

F * T R A N + V 3 . 0 操作説明書・導入編

2 0 0 0 年 1 0 月 第 1 版発行

編集・著作 株式会社 富士通ビー・エス・シー
所在地 〒108-8531 東京都港区芝浦 4 - 15 - 33 芝浦清水ビル
プログラツ&サビス事業部 TEL 03 - 5445 - 2101
FAX 03 - 5445 - 2109

- ・ Windows、MS-DOS、Visual Basic、Access、Visual C++、Excel は
米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Acrobat® Reader copyright© 1987-1999 Adobe Systems Incorporated.
All rights reserved. Adobe および Acrobat はアドビシステムズ社の商標です。
- ・ 会社名および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
- ・ 本書およびシステムは、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- ・ 無断複製、および転載を禁じます。
- ・ 落丁、乱丁はお取り替えいたします。